

医療従事者の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

<p>医療従事者の勤務状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 職員数 現員 1,226名(令和6年9月現在) 開放病床20床 利用率 0.0%(令和5年度) 月平均時間外勤務(令和5年度) 11.57時間 育児短時間利用者 14人 部分休利用者 54人 医師の当直回数 平均月当たり 1.09回 	<p>これまでの取り組み及び今後の目標</p> <p>当院では、これまでも外部委託やタスク・シフト等により職員の負担軽減を図ってきたところであるが、高齢患者の増加に伴う対応の複雑化や救急搬送件数の増加等のほか、令和6年4月から医師の働き方改革が本格的に施行されたことにより、職員の負担軽減が一層重要な課題となっている。こうしたことから、さらにタスク・シフトや外部委託を進めるとともに、新たな経営強化プラン推進のために必要となる医療従事者の人数を確実に確保していくことが必要である。</p>
---	--

項目	令和5年度までの取組	現状	令和6年度の目標		目標達成のために必要な項目
				達成状況	
職員の増員	新たな経営強化プランの中で、必要とされる医療従事者の人数について検討し、十分な体制を確保できるよう取り組んでいく	R6.5改定の経営強化プランを推進するためR6年度からの3か年で必要な増員を行うこととし、R6.6定数条例を改定(+128人増員)	職員増員のため、採用計画に従って競争試験、選考試験を実施し必要な職員数を確保する。	選考試験を実施しR7新採予定者(看護師、コメディカル)を確保	・病院見学会の実施等
勤務時間の縮小	医師労働時間短縮計画の策定	計画に掲げる目標を達成するため、各部門において取り組みを推進	医師労働時間短縮計画に掲げる目標の達成	一部未達成の目標があるため今後も取組を継続する	・タイムリフォーマーによる勤務時間の管理 ・長時間超過勤務医師に対する面接指導の実施等
適性な労働時間の確保	産科医の宿直許可申請	当直業務を実施している病棟(ICU、ECU、HCU、麻酔科、NICU)について宿直許可を申請	ICU、ECU、HCU、麻酔科、NICUの宿日直許可の取得	ICU、ECU、HCU、麻酔科の宿日直許可を取得	NICUについても許可申請中
	宿直、日直の許可認定	昭和44年に宿日直勤務の許可を受けたままとなり、現在の状況を反映した許可内容となっていない。	コメディカル部門についても、現状の宿直体制を反映した内容で宿日直の許可を受けなおす方向で調整	来年度、申請に向けた調整を予定	申請に向けて各部門と調整を進める
業務分担の促進	タスクシフトの推進に必要な人材の育成	特定行為研修施設認定に向けた準備	令和6年4月～特定行為研修施設として認定された。当院では救急パッケージを3名が受講中である。次年度から区分拡大予定である。	特定行為研修修了者3名 今年度修了見込者4名	手順書の整備
	単独主治医制からの脱却	院内待機を縮減し、オンコールでの対応を増やす	単独主治医制から複数主治医制への移行	段階的に移行中	それぞれの診療科内で引き続き検討
	薬剤師による薬剤指導の推進	医師が一部薬剤指導を行っているが、薬剤師を増員し、入院患者に対する管理指導業務の充実を図る	薬剤師による薬剤指導の充実を図れるよう、更に薬剤師の増員を図り、病棟配置に努める	選考試験を実施し薬剤師の増員を図った。	引き続き薬剤師の増員を図る
地域の他の医療機関との連携体制	回復期への移行に伴う転院を促進するため、車両、人材を確保し、具体的な運用計画を作成	通称「平カー」「バンビカー」を活用して、回復期の転院を円滑に実施	運用計画に基づき、円滑な転院を実施	「平カー」「バンビカー」を活用し円滑な転院を実施した。	受け入れ病院との調整 必要に応じて運用計画を改定
最新機器の導入	最新機器購入の検討、導入	手術時の負担軽減のため、手術支援ロボットを運用	手術支援ロボットによる運用を拡大する	手術支援ロボットの運用拡大に向けて準備中	手術支援ロボットの運用
院内保育所の設置	病児保育再稼働(R5.5)	夜間保育実施に向けた検討	夜間保育の試行とニーズ把握	R6.10月に試行(1名利用)。今後段階的に実施を拡大する。	院内のニーズ把握、実施体制の整備